

原子力資料情報室緊急ウェビナー

南鳥島での文献調査申し入れの 経緯と問題点

2026.5.1.

高野聡

(原子力資料情報室、特定放射性廃棄物小委員会委員)

南鳥島

- 行政区は東京都小笠原村。海上自衛隊や気象庁職員約25名が暮らす。一般住民はいない。東京都からの距離は1800km。
- 小笠原村の人口は約2500人。一般住民は父島と母島に暮らす。年間予算は約68億円。
- 小笠原諸島が2011年に世界自然遺産に登録。南鳥島は鳥獣保護区。

写真：ebird.org



小笠原村HP

小笠原村HP



南鳥島での文献調査申し入れ

○申し入れの経緯

- 3月3日に経産省が南鳥島での文献調査のために小笠原村に申し入れ(地元の発意なし)
- 3月14日と21日に父島と母島で経産省とNUMOによる説明会
- 4月13日に渋谷正昭村長が住民向け説明会。「国が判断すべき」と立場表明。
- 4月21日に赤沢経産大臣が「国の判断として実施したい」

○渋谷村長の5つの要求

1. エネルギー政策の継続的検討。放射性廃棄物の新たな処理方法や発生抑制技術開発。
2. 他の自治体への申し入れない限り、次の段階についての意見表明せず
3. 理解活動や意見交換の場を継続。住民からの意見をもとにより専門性やテーマに分けた説明、議論の場の設置。
4. 風評被害の防止の努力
5. 文献調査が実施されても処分施設建設の決定ではないことの確約

時事通信 (2026)



「南鳥島で地層処分」の問題点

○原子力資料情報室の声明

- ・南鳥島での文献調査申し入れに際し、私たちが考えるべきこと(3月10日)

<https://cnic.jp/73033>

- ・南鳥島での高レベル放射性廃棄物地層処分には多くの問題がある(4月13日)

<https://cnic.jp/81836>

【原子力資料情報室声明】南鳥島での文献調査申し入れに際し、私たちが考えるべきこと

2026/03/10 ■ プレスリリース 放射性廃棄物

南鳥島での文献調査申し入れに際し、私たちが考えるべきこと

2026年3月10日

NPO法人原子力資料情報室

声明「南鳥島での高レベル放射性廃棄物地層処分には多くの問題がある」

2026/04/13 ■ CNICからのお知らせ プレスリリース 放射性廃棄物

南鳥島での高レベル放射性廃棄物地層処分には多くの問題がある

2026年4月13日

NPO法人 原子力資料情報室

「南鳥島で地層処分」の問題点

○地上施設建設の困難

- 南鳥島の面積は1.5km²。掘削した土を安全に保管できる十分なスペースの確保困難。専用港を建設する条件は整っているのか？塩害、津波被害に耐えられるのか？

○地下施設の困難

- 地下約1000mまでは石灰岩で遮水性が低く(しかも海水)。地下水の流動・流速の点でも掘削や約200kmの坑道の健全性に悪影響

○長距離輸送

- 六ヶ所村から南鳥島は2200km。長距離輸送は「被ばくは社会的、経済的に合理的に達成可能な限り低く抑えなければならない」という放射線防護の原則に合致せず

○海面上昇

- 南極及びグリーンランド氷床の大規模な崩壊等が発生した場合、地球全体で2100年に2 m、2150年には5 m位の海面水位上昇の可能性。高潮などの浸水リスク。

○予測不能な処分コスト

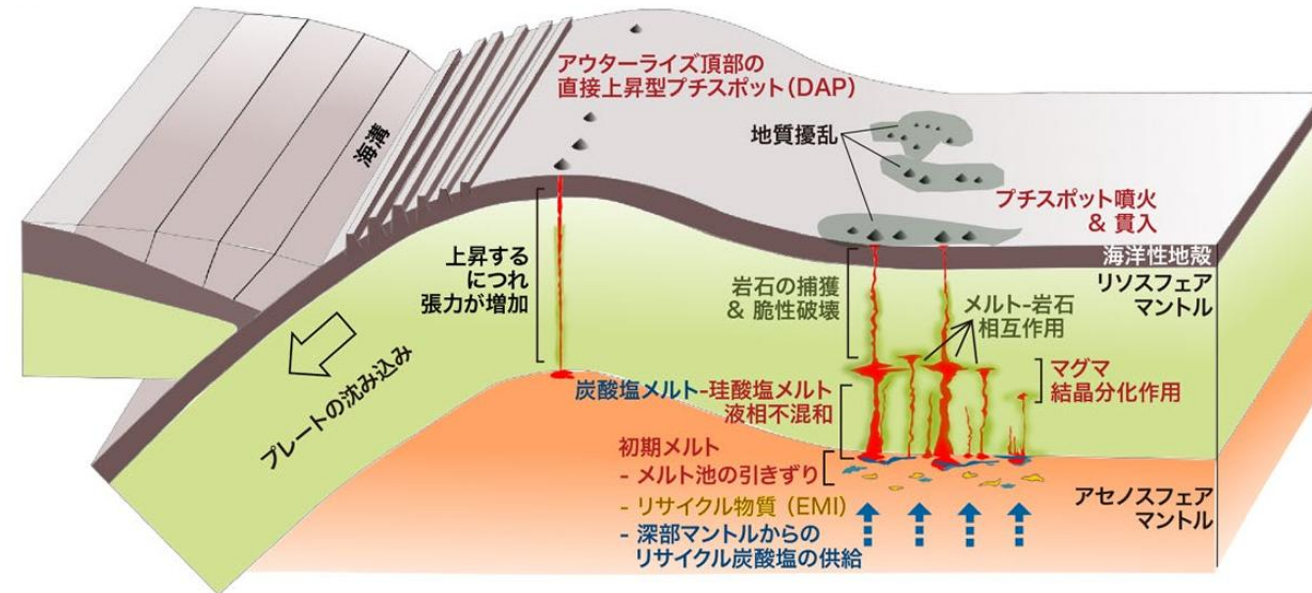
- これらの悪条件はすべてコストに跳ね返ってくる。4兆円では到底済まない。

「南鳥島で地層処分」の問題点

○新たなリスク「プチスポット火山活動」

- 南鳥島はプレート境界から離れた太平洋プレート上に存在する唯一の国土。地震や火山の影響を最も受けにくい場所として推奨する専門家もいる。
- 近年の研究によると、南鳥島近海では海洋プレートの屈曲が原因で生じる「プチスポット火山活動」が発生。最新の音響調査によるとその活動領域は南鳥島から最短で約46 km。今後より近距離での活動の可能性が否定できず。

<https://www.waseda.jp/inst/research/news/81957>



いずれも早稲田大学など(2025)

南鳥島とディープ・ボアホール

○ディープ・ボアホール

- 地下300~500mの地層処分では石灰岩に処分。太平洋プレート上に存在する地学的特徴を生かすなら数km~10km地下に処分するディープ・ボアホール(超深度掘削坑処分)が推奨されてきた
- 地下数km以深ならば石灰岩ではなくより硬く安定した玄武岩に処分できる
- 研究開発段階の技術のため、実現可能性は保証されておらず、研究にも相当の時間を要することが予想される
- 政府は南鳥島での文献調査の申し入れ理由について「科学的特性マップでグリーン」「未利用地がある国有地」としか説明せず。
 - 申し入れの説明が「太平洋プレート上にある地学的安定性を考慮し、ディープ・ボアホールも将来的に検討することも含め選抜した」なら一定程度納得
 - もし「太平洋プレート上にあるからより安全」と説明すればプレート境界上でも地層処分ができる前提が揺らぐから言わない。それならなぜ南鳥島一カ所のみなのか合理的な根拠はない。

政治的思惑による申し入れ

○北海道の文献調査

- 北海道の文献調査は報告書に対する市民からの意見募集が終了した段階。NUMOがそれに対する「見解書」を公表する予定。
- その後、NUMOは概要調査実施計画を経産大臣に提出し、経産大臣はその認可の前に北海道知事と寿都・神恵内両町村に意見照会を行う
 - 鈴木知事：候補地が北海道に偏り。国が率先して候補地を絞り込んでほしい。
 - 片岡町長：文献調査実施地域が3つのままだったら回答しない

○柏崎刈羽原発の再稼働

- 再稼働するなら国が電力消費地への理解を促し、調査地域拡大に責任持てと地元からプレッシャー

これらの状況を打破したい国の政治的思惑からの「苦肉の策」
地元の発意なき申し入れに対する反発が一番少ないと判断したのが
遠く離れた国有地(しかも東京都)の南鳥島

小笠原村民の声

○宮城ジャイアン村議の住民アンケート調査：<https://miyagigian-parliament.jimdofree.com/>
－経産省とNUMOの説明会の前と後、村長の説明会後の計3回実施

●否定的意見

- ・なぜ南鳥島なのか。隅っこのへき地ばかり。内地で使った分は内地で処理して。
- ・自然破壊。そこに住む生物達のことを考えてない。世界自然遺産に核廃棄物は矛盾。
- ・交付金はなくてよい
- ・リスクを言わない。説明内容が不足。原子力の負の要素を言わない。

●肯定的意見

- ・とりあえず調査はしてもいい。先に進むかはその都度判断すればいい。
- ・理路整然としていて説明がわかりやすい
- ・居住地から遠く離れている。どこから受け入れないといけない。
- ・交付金で町は潤う

全体的に国には「理解できない」「説明不足」
村長には「一方的」「拙速」という否定的な意見が多い